



かながわ湘南西

障福ナビだより



令和 6 年 11 月 29 日 第 134 号

社会福祉法人 常成福祉会 丹沢自律生活センター総合相談室

〒259-1302 神奈川県秦野市菩提 1711-2 ☎ 0463-71-5872 Fax 0463-75-3377 E-mail: soudan@jousei.or.jp

令和 6 年度神奈川県相談支援従事者初任者研修と 地域でのインターバル実習受け入れ体制の整備

今年度の神奈川県相談支援従事者初任者研修（以下、「初任者研修」という）は、これまで受講は任意であったプレ研修部分 1.5 日分を研修の中に組み込み、全日程 8.5 日となりました。これは、様々なバックグラウンドを持つ受講生に対し、初任者研修を受講するために必要な対人援助職としての基本的な価値観や知識を伝えるために開催してきたプレ研修を標準化する意味がありました。8 月 23 日から始まった今年度の初任者研修は、2 コース合計で 200 名近い方が受講しており、11 月末時点で、2 回目のインターバル実習の最中です。12 月には 8 日目、9 日目となる演習が予定されていて、それをもって修了となります。



これから相談支援専門員になる皆さん。演習中は真剣そのものですが、休憩時には、和気あいあいの様子。楽しく学んでいることが伝わってきます。

すかねてより本紙で紹介してきましたが、湘南西部圏域では、圏域相談支援ネットワークがインターバル実習の相談先リストを作成していて、湘南西部圏域から参加する受講生に配布し、効果的に実習に繋げています。この相談先リストは、3 市 2 町の相談支援体制の特徴がそのまま現れています。平塚市は基幹相談支援センターが直営であり（児童はこども発達支援室くれよん）、委託相談支援事業所は身体、知的、精神の 3 か所あるので、5 機関掲載されています。伊勢原市では、基幹相談支援センターを行政が直営していますが、児童の基幹相談支援センターは民間が受託しており、併せて委託相談支援の役割も果たしています。身体、知的の委託相談支援事業所と合わせて 4 機関が掲載されています。秦野市、大磯町、二宮町では、民間事業者が基幹相談支援センターと委託相談支援事業を併せて受託しています。そのため、行政と基幹相談支援センターの 2 機関が掲載されますが、秦野市ではそれに加えて、基幹でも委託でもない、主任相談支援専門員が在籍する事業所が計 3 か所あり、合計 5 か所が掲載されています。このように、湘南西部圏域では、委託相談支援事業所、そして、基幹でも委託でもない事業所の主任相談支援専門員がインターバル実習に協力することで、この取り組みを盛り上げています。昨年度のインターバル実習受け入れの振り返りで、実習指導のポイントを更に深く学ぶ必要があるとして、今年 8 月には、かながわ障がいケアマネジメント従事者ネットワークにご協力いただき、研修会を開催しました。今年度もインターバル実習を終えたのち、12 月の圏域相談支援ネットワーク会議で、実習対応を振り返り、来年度の対応につなげる予定です。

令和6年度第2回伊勢原市グループホーム連絡会・ 湘南西部圏域グループホーム連絡会実践報告会について

令和6年11月21日(木)に、伊勢原市グループホーム連絡会と湘南西部圏域グループホーム連絡会が合同で開催し、伊勢原市内のグループホームを中心に17名の方が出席しました。湘南西部圏域グループホーム連絡会では、今年度に入ってから、圏域内各地のグループホーム連絡会と合同で、事例検討会を開催しています。この事例検討会は、助言者に大学の先生等をお迎えし、事例を提供して下さったグループホームで開催しています。今回の実践報告会は、今年5月に事例検討会を終えた伊勢原市内のグループホームが、そこで得られた助言を基に取り組んだ成果や学びを市内の事業所と共有することを目的に開催しました。



まず最初のプログラムでは、今年5月の事例検討会が開催された時点と同じ状況と仮定し、事例提供者の困りを解決する方法をグループスーパービジョン(GSV)の手法で検討しました。各グループからは多種多様な方法が提案され、事例提供者は、その中から実践してみたい方法を選びましたが、自分の提供した事例を会場の皆さんが真剣に考えてくれていることに感動し、胸がいっぱいになったそうです。次のプログラムでは、5月に開催した事例検討会で助言者からいただいた助言内容と、その助言を基に支援を行ってみた結果について、事例提供者からの報告がありました。そして、ここまでの発表や報告を受け、最後のプログラムとして、神奈川県立保健福祉大学 准教授 岸川学 氏から、会場のグループホーム職員の方々に向けて、「『支援困難な人』の理解と具体的対応」というテーマで講演いただきました。その中では、

- 「支援困難」とは、誰にとって困難なのか。当事者の存在や特性が困難なのではない。表出された「行為」に困難さを感じることに。
- 「一人の幸せの実現」と「社会の幸せの実現」はイコールではない。しかし、ここに介入していくことが福祉の専門性であり、ベストの答えが出なくても、少しでも皆が楽になれるベターを見つけることが大切。

など、支援が行き詰まった時に考えるべき事柄について、丁寧に解説いただきました。今後の支援に欠かせない、支援者としての大切な見方を学ぶ機会になりました。

GSVの活用は、圏域内のグループホーム連絡会では初めての試みでしたが、有用性が確認できたと言えます。サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者の実践・更新研修、相談支援従事者初任者・現任研修のカリキュラムに取り入れられている手法でもあり、圏域内市町協議会の相談支援部会、児童部会等でも開催されています。身近な地域の中に、グループホームの方々から支援で困った事例を相談できる場を作り、互いに支援の質を向上させる取り組みとして、GSVに大きな意義を見出した連絡会となりました。

【あとがき】今年度は横浜 DeNA ベイスターズが日本一になりましたが、前回日本一になった26年前の1998年は、地球温暖化を実感することは今より少なかったように思います。次回の日本一が26年後だと、地球がどうなっているか心配なので、早めに勝ってもらえるといいかなと思います。良いお年をお迎えください。